

レ否不見マジキ、我心バヘハ自然ラ音ニモ聞クラム、懨ニ投グヨ彼奴ト云ヘバ、盜人暫ク思ヒ見テ、忝ク何デカ仰セ事ヲバ不承ラ候ハン、刀投グ候フト云テ、遠ク投グ遣ツ、兒ヲバ押起シテ免シタレバ、起キ走テ逃テ去ヌ。○中略 親孝ハ盜人ヲ斫テモ奔テムト思ヒタレドモ、守ノ云ク、此奴糸袁レニ此ノ質ヲ免シタリ、身ノ侘シケレバ、盜ヲモシ命ヤ生トテ質ヲモ取ニコソ有レ、惡カルベキ事ニモ非ズ、其レニ我ガ免セト云ニ隨テ免シタル、物ニ心得タル奴也、速ニ此奴免シテヨ、何カ要ナル申セト云ドモ、盜人泣キニ泣テ云事无シ。○下略

〔宇治拾遺物語〕二むかし右近將監下野原誤○原恐下同、厚行といふもの有けり。○中略 年たかくなりて西京にすみけり、となりなりけるにはかに死けるに、此原行とぶらひに行てその子にあひて、別のあひだの事どもとぶらひけるに、此死たるおやを出さんに門あしき方にむかへり、さればとてさてあるべきにあらず、門よりこそ出すべき事にてあれといふをきゝて、原行がいふやう、あしき方よりいださんこと、ことに玄かるべからず、かつはあまたの御子たちのためことにいまはしかるべし、原行がへたでの垣をやぶりて、それよりいだし奉らん、かつはいき給たりし時、ことにふれてなさけのみありし人也、かゝるおりだにもその恩を報じ申さずば、なにをもつてかむくひ申さんといへば、子共のいふやう、無爲なる人の家より出さん事あるべきにあらず、忌のかたなりとも、我門よりこそいださめといへども、僻事なし給ひそたゞ、原行が門よりいだし奉らんといひてかへり。○下略

〔平家物語〕七篠原合戦の事

むねとの人々には、長井の齋藤別當さねもり、うきすの三郎玄げちか、またの、五郎かげ久、伊藤の九郎助氏眞下の四郎重直也、是らは皆軍の有らん程、暫休まんとて、日ごとに寄あひく、玄ゆん酒をしてぞ、なぐさみける、まづ長井の齋藤別當がもとに、より合たりける日、さねもり申ける